

◎日本の図書館：古代から明治初期

◆この時代のトピック

古代（3世紀頃～12世紀頃：邪馬台国、大和朝廷、奈良時代、平安時代）

- ・3世紀頃には大陸の国と文書の交換があったといわれている。
- ・6世紀に百済から五経・医・易・暦の博士が来日。同じ頃、仏教とともに経典も渡来したとされている。この頃には朝廷における記録類の集積があったと推定される。
- ・607年、法隆寺建立。その頃の日付を持つ記録にある「書屋」は当時の図書館であったかもしれない。
- ・奈良時代、図書寮の設置。（政府組織。書物の蓄積、歴史書の編纂、墨硯筆紙の製造・分配。不美乃豆加佐）
- ・奈良時代、石上宅嗣の芸亭。（貴族の文庫の例。志を同じくする人々に開放）

中世（12世紀頃～16世紀頃：鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代）

- ・平安末期から、多くの図書や記録類が治安の乱れによる盗難や火災のために散逸してしまった。
- ・一方、この時期には寺院が保存図書館的な役割を果たす例もあった。（金沢文庫、足利学校）
- ・貴族の中には古代からの伝統を受け継ぐため、書物を櫃に納めて分散保存したり書写によって伝える者もあった。

近世（16世紀頃～19世紀頃：江戸時代）

- ・戦乱がなくなり出版活動が盛んになるが、幕府の厳しい統制下におかれた。
- ・読書は広く普及した。本の入手は貸本屋が一般的であり、貸本屋は本を背負い得意先を回る場合が多かったと言われている。江戸だけではなく、上方や地方都市にも存在した。全国的に有名な貸本屋であった「大惣」は名古屋に本店があり、明治中期まで営業を続けた。
- ・貸本屋以外では、学問・俳句・芸能などのサークルで、中心となる蔵書家の本の貸し借りも行なわれた。
- ・各地で、学者や僧侶が、自らの蔵書を公開する場合も多かった。
- ・武士や貴族階級で組織的なものとしては、藩校・郷学（ごうがく）の文庫や、大名・公家の文庫などがある。
- ・藩校・郷学の文庫は、中心は儒学関係だが、幕末には洋学関係の書物も増えてきた。
- ・大名・公家の文庫は、保存図書館としての役割も果たし、貴重な資料を後世まで伝えた。

江戸時代から明治時代へ（19世紀後半）

- ・明治初年（1868）から、各地に新聞縦覧所や雑誌・書籍の縦覧所が広まった。
- ・明治初期の郷学校では、読書施設が見られる例がある。福山藩では貧窮の生徒に貸出を実施した。
- ・全国各地に生まれたさまざまな結社では、読書施設をもつものもあった。
- ・さまざまな団体が読書施設をもつ例もあった。村の青年たちの中の読書グループ、農業生産にかかわる団体、宗教団体、社交・娯楽の「クラブ」、など。
- ・欧米に渡航し、帰国後、欧米の図書館事情を紹介した者も。（例）福沢諭吉『西洋事情』
- ・国の図書館政策としては、1872年に開館した文部省書籍館（しょじゃくかん）がある。
- ・1870年代中頃から、多くの府県で図書館（書籍館）が設立された。しかし、これらの初期の図書館は、財政難のため1880年代後半には姿を消した。

「*」印の項目は別紙参照

6世紀	仏教とともに経典渡来
621頃?	「辛巳」（西暦621か?）や「書屋」と書かれた板が、法隆寺で1992年に発見された
奈良時代	図書寮（ずしりょう。としりょう）（内外の書物の蓄積、歴史書の編纂）
奈良時代末	芸亭（うんてい）（石上宅嗣（いそのかみやかつぐ）、729-781）
鎌倉時代	金沢（かなざわ）文庫*（読み方に諸説あり、古くは「かねさわ」）
室町時代	足利（あしかが）学校*
安土桃山時代	きりしたん版（イエズス会のヴァリニャーニ、印刷機械・欧文鉛活字、1590）
	古活字版（朝鮮の活字技術による印刷物で、勅版本、嵯峨本などがある）
江戸時代	貸本屋（天保年間には800余軒、代表的貸本屋：大惣（だいそう）、1767-1898）
	射和（いさわ）文庫*（伊勢国飯南郡射和村、竹川竹斎（たけかわちくさい）、1854）
	蓼園（たでその）社（前橋藩原之郷村）
	神社への本の奉納：住吉大社（大坂）、北野天満宮（京都）、など
	羽田八幡宮（はだはちまんぐう）文庫（豊橋、福谷世黄、1848）
	伊勢神宮・豊宮崎（とよみやざき）文庫*（度会延佳（わたらいのぶよし）、1648）
	昌平坂学問所（江戸幕府）
	郷学（藩校の分校）
	幕府の文庫：江戸城・紅葉山（もみじやま）文庫*、など
	藩主の文庫：尾張藩・蓬左（ほうさ）文庫*、水戸藩・彰考館（しょうこうかん）文庫*、紀伊藩・偕楽園（かいらくえん）文庫*、前田家・尊経閣（そんけいかく）文庫*、など
	公家の文庫：近衛（このえ）、西園寺（さいおんじ）、冷泉（れいぜい）*、など
読書施設のあるクラブ（幕末～明治20年代頃、横浜クラブ、イギリス人経営）	
1866(慶応2)	福沢諭吉『西洋事情』（西洋諸国ノ都府ニハ文庫アリ「ビブリオテーキ」ト云フ）
明治時代	全国に公・私立の新聞縦覧所
1872(明治5)	書籍（しょじやく）館*（文部省、日本最初の国立公共図書館、場所は湯島聖堂内）
1872(明治5)頃	宗教関係の施設：便覧舎（キリスト教、群馬県安中1872）、仏教伝道会（富山県1887）、私立若松図書館（日本組合若松基督教会、横須賀1893）、など
1873(明治6)頃	結社の読書施設：求我社（盛岡1873）、明六社（東京1874）、立志社（高知1874）、自助社（徳島1874）、五日市学芸講談会（東京・多摩地域1878）、など
1875(明治8)頃	府県の図書館：浦和書籍館（埼玉県1875-1886）、大阪府書籍館（大阪府1876-1888）、秋田公立書籍館（秋田県1879-1886）、など
1877(明治10)	田中不二麻呂「公立書籍館ノ設立ヲ要ス」発表
1878(明治11)	『特命全権大使米欧回覧実記』各国の図書館事情などを報告
1880(明治13)頃	青年の読書会活動：共覧会（函館1880）、谷地読書協会（山形県1885）、など
	農業関係の結社の施設：松本農事会（長野県1880）、安房興産会（千葉県1886）、など